

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270500687		
法人名	株式会社 日本医療事務センター		
事業所名	グループホーム きらめいと土気		
所在地	千葉県千葉市緑区土気町446-6		
自己評価作成日	平成23年1月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様の「一人ひとりの心を大切に」をモットーに、ホーム内に話し声・笑い声・歌声や音楽がいつも絶えない生活空間を目指しています。 長い人生を歩まれたご高齢者の皆様の日々が、安心して楽しく続くよう、職員が同じ方向を向き頑張っております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は「心」。思いやる心、優しく見つめる心、人は全て心であるという介護方針を掲げ、理解し生活に活かせるよう取り組んでいる。職員へ周知徹底するよう毎月行っている運営会議で確認しあっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの受入れを行っている。自治会規則の変更に伴い、会社や施設の加入が出来ないので、新たな交流の場を模索中。日課としている犬の散歩を通して、近隣の方々との交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内の体制確立を優先させてしまい、現状は取り組めていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会、家族来訪時にご意見・要望を聞き、所内会議等で話し合い、ご入居者様により良い生活をして頂ける様サービス向上に取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役所に直接行くことは少ないが、解らないことに関しては担当者に連絡しアポイント取りをしている。グループホーム連絡会等を通して話し合う機会を作っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し、事業所内研修を通じて職員に意識付けをし、身体拘束をしないよう努めている。法人としてマニュアルがあり、日々の介護の中で、意識し実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加している。 研修を受けた職員が中心となり、所内で勉強会を行いぼうしに努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員に周知出来ていないため、制度について職員全員が理解できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、確認を行い分かりやすい様に説明している。 退居時は、ご家族と話し合い、納得頂いた上で手続きを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時、ご家族も来訪されており、近況報告をし、その際ご家族からの意見も聞いており、意見・要望は運営に活かせる様努力している。千葉市介護相談員も月1回2名来訪され、運営上行かせる様努めている。行政不行っている相談員意見交換会等にも積極		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談やミーティングを定期的に行い、意見や提案を聞く機会を設け事業所内で検討し、本社へ挙げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社研修、所内研修等環境作りをし、スキルアップを目指すよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修担当者を中心に職員で構成し、毎月所内研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内交換研修を主任が中心として系列事業所を訪問し、互いのサービスの質を向上させる取り組みを行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新入居者に対しては気を配り、日々安心して生活して頂ける様声掛けし、不安・要望には耳を傾け、信頼関係作りを努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談を通して、ご家族の困っていること・不安な事等聴いている。 来訪時、話をする機械を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	体験入居をして頂き、ご本人様が環境に馴染み生活が送れるかを見極め、施設等紹介するなどの支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様が安心して楽しく暮らせるようご家族と協力し合っている。家族の一員とした考えを持ち、ご本人様を支えられる様な関係作りを努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が毎週ウクレレ演奏をし、ご入居者様と歌を楽しんでおり、より良い関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力の下、入居前から行っていた趣味サークルを継続している。ご親族や知人、以前の料理教室のお仲間が時々遊びにくる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段生活する中で、お互いに意識を持って貰える様な関わりを支援している。ご入居者様が入院したとき等、職員同行の下お見舞いに行くこともある。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の関係はほとんどないが、必要に応じてご本人様(他施設)を訪問したり、入院時のお見舞いには行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者様一人ひとりの人格を尊重し、ご入居時の事前把握のみならず、日々の生活の中で、希望・意向が汲み取れる様心がけるも、全職員が出来ているとは言えないため、情報交換・検討に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時事前調査において得た生活歴等の記録は、個人ファイル内にて管理し、必要に応じ全職員が閲覧できる。又、日々の会話等で得た新たな情報の共有にも努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化する暮らしの現状を職員間で正しく共有できるよう、毎朝のミーティングでの意見交換や、日報・申し送りノートを出勤時に読むことで把握に努めている。また、日々の業務内での情報交換も大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者担当者が中心となりアセスメントを実施し、計画作成と情報交換、気付きや意見を出し合いながら、本人・家族の意向を踏まえご本人が穏やかにより良くホームで暮らし続けて頂けるよう介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・身体状況の変化等は個別に記録し、毎朝のミーティング・日報・ユニット会議等で情報を共有しながら思索し支援している。半年毎の計画の見直しでは活かしているが、随時の見直しには至っていない		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が対応しきれない受診等はホームで対応している。又、ご本人様の様子の変化に応じて主治医変更の相談・支援も実施している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア(尺八・演芸・傾聴・フラダンス等)の来所も年々増え、家族会の方々もボランティア(ウクレレ・唄)に参加して下さり、楽しい時が増している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各入居者様の病状に合った医療が受けられる様、受診中心の主治医と在宅診療の主治医と連携している。 特に、在宅診療では訪問看護との連携も併せて実施しているため、心強い。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回訪問看護体制をとっているため、細かい体調変化の相談やアドバイス、処置等が適切に受けられ、ご入居者様のみならず職員にとっても心強い存在となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、情報がコンパクトに伝えられる様「介護要約」を作成し、個人ファイルに綴じている。地域の病院関係者(事務局、相談員、医師)との関係作りのため、訪問や勉強会への参加を積極的に実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化やターミナル期に向う可能性が見えた出来るだけ早い段階で、家族(又は本人)の意向を確認し、話し合って今後の方針を決めている。細かい対応が可能な地域の医療関係者とホーム職員がチームで支援できる体制がある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内研修では、少なくとも年1回は「緊急時の対応」として訓練を実施しているが、十分と言えないので、今後は訓練回数をふやしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回 防災非難訓練を実施している。 緊急時連絡網を作成し、速やかな対応を心がけている。 立地条件等もあり、地域との協力体制は十分とはいえない。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営理念である「お一人お一人を思いやる心」をモットーに穏やかに対応している。また、プライバシーマークを取得している本社指導の下、個人情報管理を実施している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様に決めて頂いたり、思いを表したりできる場面を作ったり、待ったりする事を心がけ支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間も一人ひとりのペースを大切にしながら決めており、日中の過ごし方等も 出来るだけ希望に沿えるよう企画実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	声掛けをしながら、その方に似合うちょっとしたおしゃれを心がけ、介助している。又、希望に合わせて理美容院の利用を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器は使い慣れたものを使用させていただき、盛り付け・配膳・片付けも可能な限り手伝って頂き、職員と共におしゃべりしながらにぎやかな食卓を心がけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの身体機能や健康状態に合わせた食事形態と量を提供している。毎日の食事量は必ず記録として残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と就寝時は実施出来ているが、毎食後の口腔ケアはきちんと出来ていない。拒否のない方から確実に実施できる様支援していきたい。必要に応じ、週1回の訪問歯科診療を受けいている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに合わせ、声掛け誘導を行い、出来る限りおむつを使用しないよう、失敗のないよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分量をチェックし、バランスの良い食事を心がけ、体操や個別の散歩も実施している。便秘がちな方は、主治医や訪問看護師による処方・指導を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自立入浴の方は希望の時間帯・1日1回の入浴を楽しんで頂いているが、介助を必要とする方は、曜日・時間帯を決めざるを得ないのが現状。決まった入浴日で1週間の生活リズムにつなげている重度の方も特浴等は使用せず、家庭風呂を楽しんで頂いている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動的に過ごすことで安眠を促すよう支援している。 不眠時はお話をきいたり、お飲み物を提供して、暫く過ごす事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬に関する全ての情報は個人ファイルに集約。 症状の変化に応じ、医師・看護師と相談、支持を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的に一人ひとりに何らかの役割を持って頂く事で、笑顔と張り合いを引き出している。 検討を重ね、その幅をさらに広げていきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節を感じて頂ける様、ご入居者様と職員でドライブや外食に出掛けたり、希望時にご家族と共に楽しく外出出来るよう積極的に支援している。 地域の方々の協力を得られるには至っていない。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人別にお小遣いとしてホーム金庫で預かり収支管理し、希望に応じ使えるよう支援している。買物の際には、可能な限りご本人様に支払をして頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、電話でお話して頂ける様支援し、投函依頼があれば、投函代行をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下は幅広く、浴室は両麻痺対応可能な左右対称のゆったりとしたスペースとなっており、建物の数箇所に天窗を設け、自然の明るさを大切にしている。また、居間から見える中庭は広く、開放的な作りとなっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い居間を食事スペースと寛ぎスペースに分けた事があったが、入居者間のトラブルに繋がってしまい、現状の形をとっている。より良い居場所作りを検討中である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は好みにより、洋室・和室が選べ、使い慣れた馴染みの家具等を使用しておられる方が多い。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・居間の壁には全て手摺りを設置し、トイレ・浴室も左右対称2つのタイプがある。今ある身体機能を安全に活かせるよう支援している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所